

令和6年度 国語科 「論理国語」 シラバス

単位数	3単位	学科・学年・学級	普通科 文系・理系 3年A～G組
教科書	論理国語（筑摩書房）	副教材等	「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「音と形で覚える漢字の演習改訂版」（明治書院） 「読解評論文キーワード改訂版」（筑摩書房） 「改訂版読み・解き・覚える日本文学史必携」（第一学習社）

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	推論の仕方について理解を深め、発表やレポートを作成する際に使うことができる。	人と世界を結ぶことばの働きを理解する	・「一〇〇パーセントは正しくない科学」（更科 功）	・物事を筋道立てて考えるために役にたつ論理学の用語や、科学における仮説の意味などを学ぶ。 ・身近な出来事から推論の例を考え、本文にならってその推論を図に書いて説明する。	行動の観察 ワークシート分析
	5	情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえることができる。	伝統を扱った文章を読み、書く力を鍛える	・「桜が創った『日本』」（佐藤俊樹）	・既存の関係を相対化するために視点を反転させる思考のあり方を学ぶ。 ・桜を扱った文学作品について調べ、その中で「桜」がどのように描かれているか、まとめる。	行動の観察 記述の確認
	6	多角的な視点から自分の考えを見直し、根拠や論拠の吟味を重ねて、主張を明確にすることができる。	偏見や先入観にとらわれない議論のあり方を考える	・「デジタルされる世界」（オリヴィエ・レイ／池畑奈央子 訳）	・関心のある事柄についての統計を選び、その数字からどのようなことが読み取れるか、また数字からだけでは分からないことはないか、考えたことをまとめる。	行動の観察 ワークシート分析
	7	人間・社会・自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めることができる。	ことばによって語るといふ行為の意味を捉える	・「物語としての自己」（野口裕二） ・「舞姫」（森鷗外）	・本文で論じられた物語の作用について理解し、自分がどのような物語を語っているか、考える。 ・明治時代の若者の葛藤を描いた作品として知られるこの小説を読み、その登場人物たちが作品の中でどのような「物語」を生きているか、前学習の評論文の論旨を踏まえて感想をまとめる。	行動の観察 記述の確認
	8 9			第1回考査 第2回考査		

学期	月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	主張を支える根拠や結論を導く論拠を検討し、その妥当性を吟味して内容を解釈することができる。	異なる時代の先見的文章から現代を考える	・「何のための『自由』か」（仲正昌樹）	・現代における「自由」の問題について読み解き、これからの私たちが望む「自由」「幸福」とはどのようなものかについて考える。	行動の観察 記述の確認
	11	効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。	既成概念を覆す創造的な思考を身につける	・「絵画の二十世紀」（前田英樹）	・「写真」の誕生が私たちに与えた歴史的な変化とはどのようなものか読み取り、それが自分自身の世界の見方にどのようにかかわっているか、理解する。	行動の観察 ワークシート分析
	12	内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握することができる。	抽象性の高い文章を整理し、理解する力を深める	・「過剰性と稀少性」（佐伯啓思）	・現代社会における「相互模範的な欲望」にはどのようなものがあるか、具体例を挙げながら話し合う。	行動の観察 記述の確認
	1	新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めることができる。	論理的な構成の重要性を再確認する	第3回考査 ・「戦争と平和についての観察」（中井久夫）	・筆者のこトバを手がかりに「戦争」についてかんがえ、どのようなものが人の目をくらませるのか、調べながら読む。	行動の観察

3 評価の観点

知識・技能	<p>(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けている。 ア 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解すること。イ 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。ウ 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めること。エ 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めること。</p> <p>(2) 文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けている。 ア 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。イ 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深め使うこと。ウ 推論の仕方について理解を深め使うこと。</p> <p>(3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けている。 ア 新たな考えの構築に資する読書の意義と効用について理解を深めること。</p>
思考・判断・表現	<p>【書くこと】書くことに関する次の事項を身に付けている。 ア 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めること。イ 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえること。ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。オ 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。カ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直すこと。</p> <p>【読むこと】読むことに関する次の事項を身に付けている。 ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながる要旨を把握すること。イ 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。ウ 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。エ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。オ 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めること。カ 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。キ 設定</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようとしている。</p> <p>(2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。</p>

4 評価の方法

評価規準に従い、小テストや定期考査の結果、提出物の内容、授業中の姿勢などを鑑み、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

授業を通じて論理的・批判的に考える力を伸ばすとともに創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高めていきます。その為にはまず、多種多様な視点で述べられた良質の文章をたくさん読み、自分の視野を広げることが重要になります。関心を持ったテーマは積極的に関連著作も手に取り、読書の幅を広げてください。授業前には理解が曖昧なままになっている語句の意味をしっかりと確認しておきましょう。